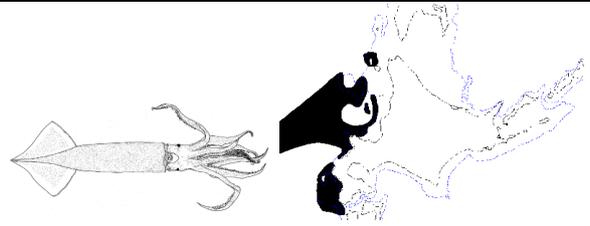


37.スルメイカ

主な漁業と漁期
 沖底漁業：夏以降
 いか釣り・定置網：6～翌1月



日本海海域

生態

◆分布・回遊

秋季発生系群の主群は、日本海南西部～東シナ海でふ化した後、日本海を北上し、5～6月頃に道南日本海に、7～8月には道北日本海に來遊し、一部はオホーツク海に達します。その後、9月頃から産卵のため日本海南西部へ南下します。冬季発生系群は東シナ海でふ化した後、日本海・太平洋を北上し、主群は8～9月に北海道周辺の太平洋及びオホーツク海に達し、10～翌1月頃には宗谷海峡・津軽海峡を通じて、大部分が日本海へ移動し、その後、産卵のため日本海を南下します。

◆産卵期・産卵場

秋季発生系群の産卵期は主に10～12月で、産卵場は北陸～対馬海峡付近、東シナ海と推定されています。冬季発生系群は、産卵期は12～翌年3月で、産卵場は主に東シナ海と推定されています。

◆成長・成熟

月齢	外套長(cm)	体重(g)
6ヶ月	15	60
8ヶ月	21	179
10ヶ月	24	276
12ヶ月	24	276

* 外套長：新谷・石井（1972）を一部改変
 * 体重：村田（1978）により算出
 * 寿命はほぼ1年

◎成熟年齢・外套長

- ・オス：ふ化後220～229日齢から成熟を開始し、250～259日齢で半数以上が成熟します。オスはメスより早く成熟します。
- ・メス：ふ化後10か月以降、オスより遅れて成熟します。

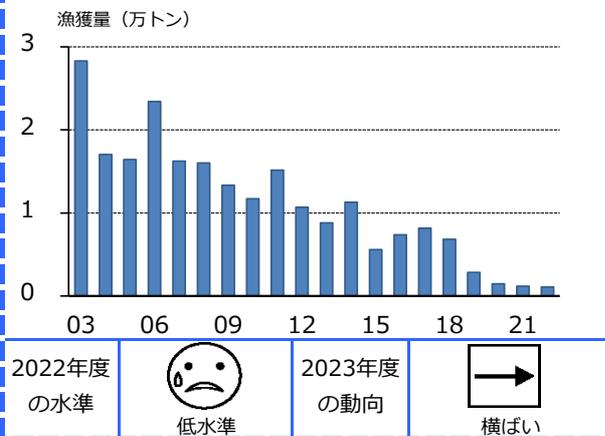
※オス・メスとも外套長20cmから成熟する個体が見られはじめます。

資源評価

[評価年] 4月～翌3月

[来遊量の指標] 標準化漁業CPUE

2022年度の漁獲量は1,068トンと前年を下回り、1980年度以降で最低となりました。2022年度の来遊水準は低水準と判断されました。調査船調査の結果から2023年度の来遊量は低水準のまま横ばいで推移すると考えられます。



※都道府県も参加した国の資源評価結果を参考に本道周辺海域の資源状況を評価しています

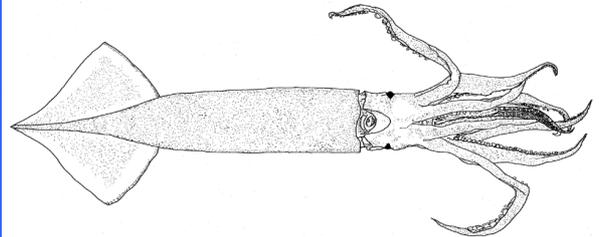
資源の維持・増大のために！

資源管理の現状(主なもの)

○TAC(漁獲可能量)管理

2023年漁期TACは、全国で79,200トン、北海道知事管理分は5,600トンです。(2023年11月現在)

※知事管理のいか釣り漁業は5ト未満船です。



☆広域回遊魚種のため、資源管理には国・他県との連携した取り組みを継続することが必要です。

問い合わせ先

北海道水産林務部水産局漁業管理課資源管理係
 北海道立総合研究機構 函館水産試験場調査研究部

電話 011-204-5477
 電話 0138-83-2893